

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

薬剤の残存量が外部から視覚できる薬剤収容ケースを有する送風機付の薬剤放散装置と、該薬剤放散装置と防除室とを連結する連結手段とからなり、連結手段を介して防除室の薬剤を放散する薬剤放散システム。

【請求項 2】

前記防除室における連結手段の通気部に、前記防除室内の一部分に薬剤を放散する局所放散管を着脱自在に連結してなる請求項1記載の薬剤放散システム。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本発明は、除菌剤、殺虫剤、害虫忌避剤などの薬剤放散システムに関する。

【背景技術】

【0002】

従来の例えば、害虫を殺虫するための殺虫方法は、殺虫剤が外部に放散しないように、密閉状の室内に、害虫が付着した物を収容して、その物に向けて殺虫剤を放散させて害虫を防除している。

【0003】

以上の殺虫剤の放散は、例えば、特開2005-27868号公報などに開示されている薬剤放散装置を使用している。

20

【0004】

【特許文献 1】 特開2005-27868号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ところで、前記方法によって、害虫を防除するには、密閉状の室内で行わなければならないため、害虫防除作業の作業者の健康を害する。

【0006】

そこで、作業者が室外に出て行くと、薬剤を的確に確認できないため、害虫を完全に防除できるか否か、不明であるので、再度、作業者が室内に入り確認する必要があった。

30

【0007】

そこで、本発明はこの様な従来方法の欠点を除去することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

以上の目的を達成するための本発明は、薬剤の残存量が外部から視覚できる薬剤収容ケースを有する送風機付の薬剤放散装置と、該薬剤放散装置と防除室とを連結する連結手段とからなり、連結手段を介して防除室の薬剤を放散するものである。

【0009】

また、前記防除室における連結手段の通気部に、前記防除室内の一部分に薬剤を放散する局所放散管を着脱自在に連結してなるようにすることが好ましい。

40

【発明の効果】

【0010】

本請求項 1 の発明によれば、密閉状の防除室内に、防除物体を収容後、外部に設置した薬剤放散装置より、防除室の防除物体に向けて薬剤を放散できる。

【0011】

そのため、薬剤の放散中に、作業者が防除室内に入る必要がないため、作業者の健康が害されることがないし、また、薬剤の放散量が外部から確認できるので、的確に防除作業を行うことができる。

【0012】

50

本請求項 2 の発明によれば、防除室に収容した防除物体に向けて放散管を配設することができるため、防除室全体に薬剤を放散する必要がなく、防除物体のみに的確に薬剤を放散して、害虫等を防除できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0013】

本発明の一実施例を図面に基ずいて説明する。

図中 1 は薬剤放散装置、3 は密閉状の防除室、2 は防除室 3 と薬剤放散装置 1 とを連結して薬剤放散装置 1 から放散する薬剤を防除室 3 の室内 3 B に放散する連結管たる連結手段を示す。

【0014】

薬剤放散装置 1 は収容した薬剤の残存量が外部から視覚できるように、収容量を表示する目盛り等を有する薬剤収容ケース 1 1 と、この薬剤収容ケース 1 1 内の薬剤を強制的に防除室 3 内に送風するための送風機 1 2 を有する従来周知の構造のものである。

【0015】

連結手段 2 は薬剤放散装置 1 の送風機 1 2 の排気孔に一端を連結し、他端を防除室 3 の天井 3 A に連通している可撓ホースである。

【0016】

防除室 3 は入口に開閉扉、図示するものは蛇腹状のシャッタ 3 0、出口にも同様の開閉扉 3 1 を有する密閉室で、床面には入口から出口方向に向けてベルトコンベア 3 2 が設置され、防除の対象となる物体である防除物体 4 を入口から出口方向に搬送できるように構成されている。

【0017】

そして、前記連結手段 2 の末端を連結する防除室 3 の天井 3 A に沿って、連結手段 2 に一体に連結する送風管 2 4 が配設されている。

【0018】

この送風管 2 4 には複数の放散管 2 1, 2 2, 2 3 がそれぞれ垂下され、各放散管 2 1, 2 2, 2 3 から防除室 3 の内部 3 B 全体に涉って薬剤が放散されるように構成されている。

【0019】

また、各放散管 2 1, 2 2, 2 3 と前記送風管 2 4 との間にはダンパー 2 1 A, 2 2 A, 2 3 A が開閉自在に設けて、放散管 2 1 の一部のみ薬剤が送風され、他の放散管 2 2, 2 3 をダンパー 2 2 A, 2 3 A で閉口することにより、他の放散管 2 2, 2 3 には薬剤が送風されることがないようにしてある。

【0020】

そのため、図示するように、防除室 3 の一部分に収容した防除物体 4 のみに薬剤が放散されるようにすることができる。

【0021】

そして、各放散管 2 1, 2 2, 2 3 は薬剤の放散角度を調節できるように、少なくとも先端部を可撓性を有する部材で成形することが好ましい。

【0022】

また、各放散管 2 1, 2 2, 2 3 は送風管 2 4 に対して着脱可能に連結し、送風管 2 4 と連結手段 2 の末端との間に閉口手段を設けるようにしても良い。

【0023】

この様にすることにより、不使用の放散管 2 1, 2 2, 2 3 を取り外すことができるため、防除室 3 の室内 3 A を有効に利用できる。

【0024】

本発明は以上の如く構成であるから、防除室 3 の室内 3 B に防除物体 4 を収容して、出入口を開閉扉 3 0, 3 1 で閉口して密閉状にした後、作業者が防除室 3 外で、薬剤放散装置 1 を運転して、薬剤を防除物体 4 をに向けて放散して防除作業を行うことができる。

【0025】

10

20

30

40

50

そして、防除作業中は薬剤放散装置 1 の薬剤収容ケース 1 1 内の薬剤の残存量を観察して、適量を放散後に薬剤放散装置 1 の運転を中止できる。

【0026】

そのため、作業者の健康を害することなく、適量の薬剤を放散でき、防除を的確に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【0027】

【図 1】 本発明に係るシステムの部分断面図である。

【符号の説明】

【0028】

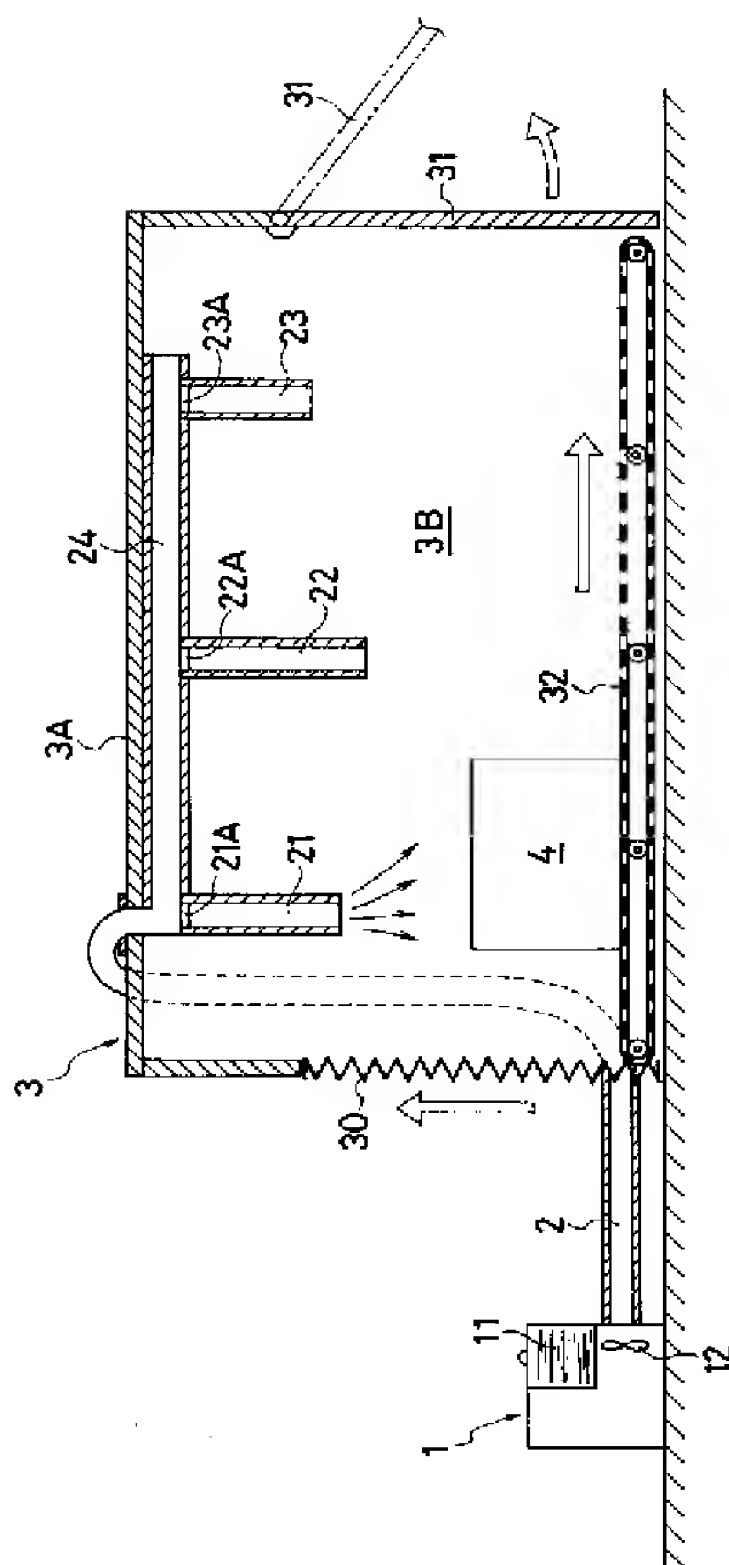
1 は薬剤放散装置

2 は連結手段

3 は防除室

2 1, 2 2, 2 3 は放散管

【図 1】



PAT-NO: JP02007143410A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2007143410 A
TITLE: CHEMICAL DIFFUSION SYSTEM
PUBN-DATE: June 14, 2007

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MIYAZAWA, KIMIE	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ECORE KK	N/A

APPL-NO: JP2005338176
APPL-DATE: November 24, 2005

INT-CL-ISSUED:

TYPE	IPC	DATE	IPC-OLD
IPCP	A01M13/00	20060101	A01M013/00
IPFC	A01M1/20	20060101	A01M001/20
IPFC	A01M17/00	20060101	A01M017/00
IPCN	A61L2/26	20060101	A61L002/26

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a chemical diffusion system surely diffusing an adequate amount of a chemical without damaging health of an operator.

SOLUTION: The chemical diffusion system is obtained as follows. A chemical diffusion apparatus 1 having a chemical housing case and a blower tube is connected to a hermetically sealed control chamber 3 for housing a control material with a connecting means 2 which is a connecting tube. The chemical diffused from the chemical diffusion apparatus 1 is diffused through the connecting means 2 into the control chamber 3.

COPYRIGHT: (C) 2007, JPO&INPIT